

型絵染め

おかもと たかし・ひろこ
岡本隆志・絃子



人間国宝 故芹沢銈介（せりざわけいすけ）氏が確立した染技法『型絵染（かたえぞめ）』。その門下生のお二人は、芹沢芸術の技法をしつかりと引き継ぎながらも、それぞれ独特の世界観で作品作りをされています。



江戸更紗

あおき しょうぞう
青木章三



戦後、絹地に更紗を施すという現代の江戸更紗の基礎を作った名工三代目更勝（さらかつ）、故青木新太郎氏。その名人の父より技を引き継いだ四代目青木章三さん。更紗は小紋でも通常30〜40枚の型紙を使って気の遠くなるような工程をへて作り上げられています。伝統の技とモダンで現代にマッチした色合いを融合させました。



荒川さんの作風は、女性らしくかわいい雰囲気。ポップで一见、『伝統的な和』からかけ離れているように見えますが、そこには確かに和が存在しています。図案から型彫り、染めまですべてを手がける型絵染めは、芸術性の高いアート作品です。

型絵染め

あらかわ まりこ
荒川真理子



かつては琉球王朝の人間にだけ着用することを許された気高い染色技法『紅型』。その紅型において、現在、重要無形文化財保持者（人間国宝）である玉那覇有公さんの染は、琉球王朝の伝統と新たな息吹を感じさせるそんな作品です。

紅型

たまなは ゆうこう
玉那覇有公



その他の作家：小島貞二、森田麻里、関美穂子、金城盛弘、城間栄順、溝口あけみ、他 着物・帯あわせて約30点

展示内容

型染めの製作工程や色の組み合わせの魅力を生かしたシーン別コーディネート術を着物、帯、小物や製作道具、パネルを使って展示いたします。

